

6. 林業普及指導

(1) 農林水産技術推進会議森林活用分科会における要望課題検討の採択状況

年度	要望課題	区分
平成14年度	1. 房総のヒメコマツの保全について	B
	2. 千葉県における里山林整備指針の作成	B
	3. 樹皮を、ペレット状やボード状に加工しての有効利用の検討	B
	4. 丸太の葉付き乾燥技術の確立と人工乾燥コスト低減に及ぼす影響	B, A
	5. 間伐手遅れ林分の管理技術指針の作成	C→C→B
平成15年度	1. マテバシイ林の管理方針について	C
	2. 低湿地に造成した海岸防災林管理の検討	A
	3. 富津海岸保安林における既設防風施設（防風ネット）の見直しについて	B
	4. 森林土木事業における法面緑化工法の検討	A
	5. マテバシイ林の防災的見地からの適正管理	C

注) 区分（平成14年度から採用区分が変更）

- A 新規課題として採用する B 新規課題として採用しない
C 現地調査のうえ検討する D 技術調整部会に付託する

平成16年度	1. 第54回全国植樹祭の植樹会場で造成した森林の今後の調査・検討	A2
	2. 省力・低コストな森林造成技術の開発	C
	3. 木質バイオマス資源の再資源化システムの検証及び生産される炭化物の性能分析・用途開発	C
	4. 木材の燻煙乾燥技術について	A2
	5. マテバシイ林の防災的見地からの適正管理	A2
平成17年度	1. 原木シイタケの新しい害虫フタモントンボキノコバエの防除法の開発	A2
	2. 森林療法プログラムの作成及び効果検証	A2
	3. 九十九里海岸保安林におけるクロマツの天然更新技術の確立	B
	4. マッシュルームの害虫対策について	A2
	5. 木質バイオマス資源（製材残材、果樹・街路樹剪定枝、林地残材等）の再資源化（炭化処理）システムの検証及び生産される炭化物の性能分析・用途開発	B→ A3, A2
	6. 省力・低コストな森林造成技術の開発	B→A3
平成18年度	1. サンプスギ材の強度試験	A1
	2. 針葉樹間伐材を利用したキノコ（ナメコ）栽培試験	C
	3. 竹材の利活用について	B
	4. 千葉県における竹林の拡大への対応について	A1, B
	5. 荒廃森林の及ぼす影響と将来予測について	A3
	6. 森林の公益的機能の評価の見直しについて	B→A3
	7. 有害獣被害対策技術の確立	A2
	8. 鳥獣被害を受けにくい作物の選定	A2
	9. 鳥獣害を受けにくい集落の環境づくり	A2
	10. マテバシイとイノシシを活用した地域特産品開発	B
	11. 九十九里海岸保安林におけるクロマツの天然更新技術の確立	B→C
平成19年度	1. 木質チップを燃料とした施設園芸の経済性に関する研究	C
	2. 有機肥料によるたけのこ栽培に関する生産技術指針の作成	A3
	3. 放置竹林の効果的な拡大防止と森林の再生	A3
	4. 県民の森を用いた森林療法プログラム実施のための森林環境づくりとコース設定の研究	A2
	5. なしのせん定枝を利用したきのこ類の栽培技術の開発	A1
	6. サンプスギ製材品の強度及び病原菌のその後の活動について	
	① サンプスギ製材品の強度試験	A1
	② 非赤枯性溝腐病付着材の製品における病原菌の活動	A1
	③ 非赤枯性溝腐病付着剤が人体に及ぼす影響	C

平成20年度	1. 「ビタミンB1いっぱいきのこ」栽培技術の追加試験 ①「ビタミンB1いっぱいきのこ」の追加施用技術開発 ②「ビタミンB1いっぱいきのこ」技術の「原木シイタケ」への適用	A3 A3
	2. 廃培地を使用した菌床きのこ栽培技術の開発	A3
平成21年度	1. 木質バイオマスの効率的な生産・流通システムの構築に向けた調査研究	A1
	2. 千葉県における長伐期林業の成立に向けた生産目標の設定と施業基準の策定	C、B
	3. サンプスギ心材の強度性能及び耐久性能の解明	C
	4. 千葉県における放置竹林対策について	A3、A2
	5. 高齢級過密森林の管理手法と強度間伐導入基準の確立	A3
	6. マテバシイ材の活用方法とマテバシイ林管理技術の確立	A2、C、A3
	7. マテバシイ林の伐採と更新	A3
	8. 松くい虫被害に強い「抵抗性クロマツ」の選抜・育種	A2
	9. 千葉県に適した無花粉スギの育種	A1
	10. スギ非赤枯性溝腐病抵抗性クローン選抜のための早期検定技術開発	A1
	11. スギカミキリの被害対策について	A1、C
	12. スギカミキリ被害の経済的・効率的防除方法	A1
	13. 北総地域特有の地形に対応した効率的な伐採・搬出技術の開発	B
	14. ヤマビルの生理生態的研究開発による効果的な防除法	C
	15. 九十九里海岸防災林におけるクロマツの代替樹種の選定等施業方法の策定	A2
	16. 在来草本種による法面緑化手法の確立	A3
平成22年度	1. 簡易なスギ溝腐病抵抗性判別技術の確立	C
	2. 非赤枯性溝腐病被害木を利用した鳥獣被害防護柵の開発	A2
	3. 害虫による菌床きのこの被害防止に関する省力的で効果的な対策方法の研究	A3、A3、C
	4. ヒメコマツの種苗生産について	A1
	5. 海岸県有保安林の維持管理手法の検討	A1、A1、A2、A3
	6. 「健康と癒しの森30選」等のセラピー効果の検証と効果的な活用方法の開発	A3、C
	7. サンプスギ材の外観的特徴の解明	C、A3、A3
	8. 千葉県における長伐期林業の成立に向けた生産目標の設定と施業基準の策定(②、③)	H21からの継続課題 ②：B→A3, ③：B→A3
	9. 北総地域特有の地形に対応した効率的な伐採・搬出技術の開発	H21からの継続課題 B→C
平成23年度	1. 海岸防災林保全・整備技術の多様化	B
	2. 海岸防災林における塩害の状況把握と対策の検討	A3
	3. 里山活動の成果の検証	A3
平成24年度	1. 九十九里海岸の県有保安林における植栽後の効果的な管理方法を前提とした苗木植栽のパターン(間隔等)について	A2
	2. 放射能に汚染されたほだ木の除染方法等の確立	A2
	3. 海岸林前縁部における広葉樹を活用した海岸林造成技術の開発	A2
	4. タケノコに関する放射性セシウムの実態把握と対策の確立	A3
平成25年度	1. 接種検定済みクロマツ苗木の挿し木による生産の実用化に向けた研究	A2
	2. 未利用林地残材等の経済的・効率的搬出手法の確立及び普及	A1
	3. 海岸防災林保全・整備技術の多様化	A2

注) 区分(平成16年度から採用区分が変更)

A1 新規課題として採用する

A2 現在実施中の研究課題で対応する

A3 現地において問題解決する

B 現地調査のうえ検討する

C 新規課題として採用しない

(2) 農林総合研究センター森林研究所における平成25年度試験研究課題一覧表

I 生産力を強化し農林水産物を安定供給する研究

(2) 農林水産物の安定供給を支える技術の開発

9 高品質安定生産をめざした病害虫・雑草管理技術の確立

4 雑草防除技術の確立

①竹が侵入した人工林における竹枯殺用新規開発薬剤の評価 (H24-H25)

10 農林作物の野生鳥獣被害軽減化技術の開発

2 森林・林業に対する獣類被害実態の解明と被害軽減化技術の確立

②林縁及び耕作放棄地における獣害の少ない特用樹・山菜栽培の検証 (H22-H26)

③放置竹林等の整備による獣類被害軽減効果の解明 (H25-H27)

II 環境に調和した農林水産物を推進する研究

(1) 県民の暮らしを守る環境保全型農林水産技術の開発

13 環境にやさしい森林管理技術の開発

1 スギ・ヒノキ花粉の飛散抑制技術の開発

④ヒノキ花粉飛散量予測のための雄花観測技術の開発 (H22-H25)

⑤人工林施業の長伐期化に対応した将来木選定の指針策定 (H23-H25)

⑥花粉の少ないスギ植栽地における雄花多産木間伐の効果の検証 (H23-H28)

(2) バイオマスなどの有効利用技術の開発

14 バイオマス等の地域資源・未利用資源の活用技術の開発

1 未利用木質バイオマスの利活用技術の確立

⑦木質バイオマスのチップ化による利活用技術の確立(要望課題) (H22-H25)

⑧スギ非赤枯性溝腐病被害材の製材利用の可能性の判定 (H23-H25)

(3) 良好な農業生産環境の維持管理技術の開発

16 安全な食料生産に寄与するリスク管理対策

1 農林業分野における放射性セシウムの実態調査と動態把握

⑨シイタケ原木における放射性セシウムの実態把握と対策技術の解明 (H24-H26)

⑩竹林における放射性セシウム対策の確立

1) 竹林における除染技術の現地実証(要望課題) (H25-H26)

⑪竹林における放射性セシウム対策の確立

2) タケノコの放射性セシウム濃度を低減させる技術の確立(要望課題) (H25-H26)

III 農林水産資源の維持増大と多面的機能を保全する研究

(1) 農林水産資源の持続的利用を支える管理技術の開発

17 森林の病害虫対策技術の開発

1 環境にやさしい松枯れ防止技術の開発

⑫海岸砂地環境とマツ材線虫病発症の関係解明 (H23-H27)

⑬松くい虫防除のための無人ヘリコプターによる薬剤散布の効果 (H23-H25)

2 穿孔性害虫の被害防除技術の開発

⑭森林管理を主体としたスギカミキリの被害低減効果の検証(要望課題) (H22-H26)

3 スギ非赤枯性溝腐病対策技術の確立

⑮スギ非赤枯性溝腐病の拡大防止に効果的な被害材処理技術の確立 (H23-H26)

(2) 農林水産資源の増殖・育苗技術の開発

18 森林資源の維持増大に資する種苗生産技術の確立

1 林業用優良品種の開発と特性把握

⑯千葉県に適した雄性不稔スギ候補の作出(要望課題) (H22-H26)

2 花粉症対策ヒノキ・スギ品種の普及拡大技術開発と雄性不稔品種開発

⑰花粉症対策ヒノキ・スギ品種の普及拡大技術開発と雄性不稔品種開発 (H22-H25)

3 森林の多面的機能発揮に適した樹種の育成技術の開発

⑱マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツにおける千葉県に適した系統の選抜と早期供給方法の確立(要望課題) (H23-H29)

⑲ヒメコマツの保全・回復を目的とした増殖技術の確立(要望課題) (H23-H25)

(3) 森林・農地・水域など、地域資源の持つ多面的機能の評価と維持増進・活用技術の開発

19 森林資源の保全及び森林の活用技術の開発

1 防災林の管理技術の確立

⑳盛土を用いない経済的なクロマツ海岸防災林造成技術の確立(要望課題) (H23-H27)

㉑海岸防災林における広葉樹林化技術の確立(要望課題) (H24-H31)

注) I～IIIは、千葉県農林水産業試験研究推進方針の基本目標

(1)～(3)は、同重点化の方向

9、10、13…ゴシック体 は、同大課題

4、2、1…明朝体 は、同中課題

①～㉑は、研究課題

()内は、研究期間

(3) 平成25年度林業普及指導員の活動実績

(単位：時間)

区分	普及指導活動				調査研究	情報収集	連絡調整		普及指導の準備	普及関係事務報告	研修受講	その他	計
	直接		間接 (電話等)	小計			試験研究・教育機関	市町村その他の関係機関					
	個別指導	集団指導											
計	1,852.00	837.50	446.00	3,135.50	46.00	1,166.75	104.00	1,538.50	2,145.50	279.75	172.50	1,734.50	10,323.00
普及対象別内訳	林家	1,445.50	271.00	202.50	1,919.00	5人：244日×7.75時間 1人：112日×7.75時間	計10,323時間						
	会社等の事業体	137.75	96.75	27.75	262.25								
	市町村	84.25	7.50	71.25	163.00								
	森林組合	86.00	63.50	28.25	177.75								
	林研グループ	24.25	120.25	73.25	217.75								
	その他	74.25	278.50	43.00	395.75								

注) ・平成16年度の森林法改正により、平成17年4月から従来の林業専門技術員と林業改良指導員の資格が「林業普及指導員」に一元化された。

(4) 平成25年度林業普及指導員を対象とした研修

研修の名称	目的等	対象者	人員	時期	場所	講師	研修等の内容
森林研究所研修会	最新の研究情報の提供を受けるとともに、研究員との情報交換を目的とする	林業普及指導員他	16人(2人)	H25.7.24	千葉県農林総合研究センター森林研究所	福島首席研究員 廣瀬研究員	これからの木材利用と森林施業 ①長伐期施業の進め方 ②千葉県の木と森の利用について 今後必要な取り組み
刈払機研修	林業職員の資質の向上及び職員同士の情報交換・共有	林業普及指導員他	11人(5人)	H25.9.12	千葉市農政センター 千葉市内の森林	森主任上席普及指導員 森林課 恵副主査	安全な刈払機の取り扱いについて 刈払機を使用した下刈りの実践
野生きのこ研修	野生きのこに関する知識を修得し、毒きのこによる事故防止に資する	林業普及指導員 林業研究会員他	36人(4人)	H25.10.18	味の研修館 (大多喜町)	千葉県立房総のむら 風土記の丘資料館 吹春俊光 主任上席研究員	野生きのこの同定及び食・不食の判定 野生きのこの基礎知識
高性能林業機械研修	導入が進められている高性能林業機械を有効に活用し、森林整備の推進に資する	林業職員 森林組合 事業所長 他	21人(5人)	H25.11.5	君津市糸川地先森林	千葉県森林組合 磯部 業務課長	高性能林業機械を利用した森林整備 現場の視察 現地における路網と作業システムの検討 高性能林業機械を利用した森林整備の推進に係る課題等の意見交換
提案型集約化施業研修	提案型集約化施業に関する知識を深め、その実践により森林整備の推進に資する	林業職員 森林組合 等職員	16人(2人) 23人(2人)	H26.2.10 H26.2.19	千葉県森林会館	京都府日吉町 森林組合 湯浅勲 理事	提案型施業の歴史から学ぶ 提案型集約化施業に必要な知識と技術
施業プランナー研修ワークショップ	提案型集約化施業に関する知識を深め、その実践により森林整備の推進に資する	林業普及指導員 森林組合 等職員	7人(2人) 10人(3人)	H26.2.14 H26.2.24	きぼーる 千葉県森林会館	森林課 平野主幹 恵副主査	提案型集約化施業を進める上での課題を整理し、解決策を考える ・千葉県における事業体サポートの事例 ・千葉県の森林の状況 ・ワークショップ他

() 内は内数で林業普及指導員の出席者数

(5) 千葉県指導林家・林業士認定状況

(単位：人、平成26年3月31日現在)

地区名	指導林家	林業士	計	備考
千葉	8	3	11	女性2名(林業士)
東葛飾	1	1	2	女性1名(林業士)
印旛	6	4	10	
香取	2	5	7	
海匝	1	1	2	女性1名(林業士)
山武	9		9	女性2名(指導林家)
長生	8	2	10	
夷隅	8	3	11	女性1名(林業士)
安房	9	1	10	女性1名(指導林家)
君津	6		6	
計	58	20	78	女性8名

(6) 林業機械・器具の現況

番 号	機 械 種 名		備 考	単 位	所 属	
					地方公共 団体	学校
1-1	索道	索道重量式		セット		
1-2		索道動力式		セット		
2-1	集材機	小型集材機	動力10ps未満	台	1	
2-2		大型集材機	動力10ps以上	台	1	
3	モノケーブル		ジグザク集材施設	台		
4	リモコンウィンチ		リモコン、ラジコンによる可搬式木寄せ機	台	1	
5	自走式搬器			台	2	
6	モノレール		懸垂式含む	台		
7-1	運材車		動力20ps未満のもの	台		
7-2			動力20ps以上のもの	台	4	
8-1	ホイールタイプトラクタ		林内で集材等の作業を行うホイールタイプのトラクタ	台		
8-2	クローラタイプトラクタ		上記でクローラタイプのもの	台		
9	育林用トラクタ		主として地拵え等の育林作業用	台		
10	フォークリフト			台	4	
11	フォークローダ			台		
12-1	クレー ン	運材機能なし	トラッククレーン、ホイールクレーン等	台	2	
12-2		運材機能あり	クレーン付きトラック	台		1
13-1	グラッ プル	運材機能なし	グラップルローダ作業車	台		
13-2		運材機能あり	グラップルローダ付きトラック	台	1	
14	トラクタショベル		搬出、育林用等に係わる土工用	台		
15	ショベル系掘削機械		搬出、育林用等に係わる土工用	台	2	
16	チェーンソー			台	43	4
17	チェーンソーリモコン装置		リモコンチェーンソー架台	台		
18	刈払機		携帯式刈払機	台	21	8
19	植穴掘機			台		
20	動力枝打機		自動木登り式	台	2	
21			背負い式等の上記以外のもの	台		
22	苗畑用トラクタ			台		
23	樹木粉碎機		伐倒木、伐根、枝条等を粉碎する機械	台	1	
24	フェラーバンチャ		立木を伐倒、集積する自走式機械	台		
25	スキッド		牽引式集材専用のトラクタ	台		
26	プロセッサ		枝払い・玉切りする自走式機械	台	1	
27	ハーベスタ		伐倒・枝払い・玉切りする自走機械	台		
28	フォワーダ		積載式集材専用車両	台	1	
29	タワーヤーダ		元柱を具備した自走式機械	台	2	
30	スイングヤーダ		簡易索張方式に対応し、かつ旋回可能なブームを装備する集材機械	台		
31	その他の高性能林業機械		従来の高性能林業機械上記7機種以外の高性能林業機械	台		
32	グラップルソー		巻立・玉切り自走式機械	台	1	

注) 対象の林業機械は、主として伐採、搬出、育林に使用されるもの。(製材工場で使用されるものは含まない。)

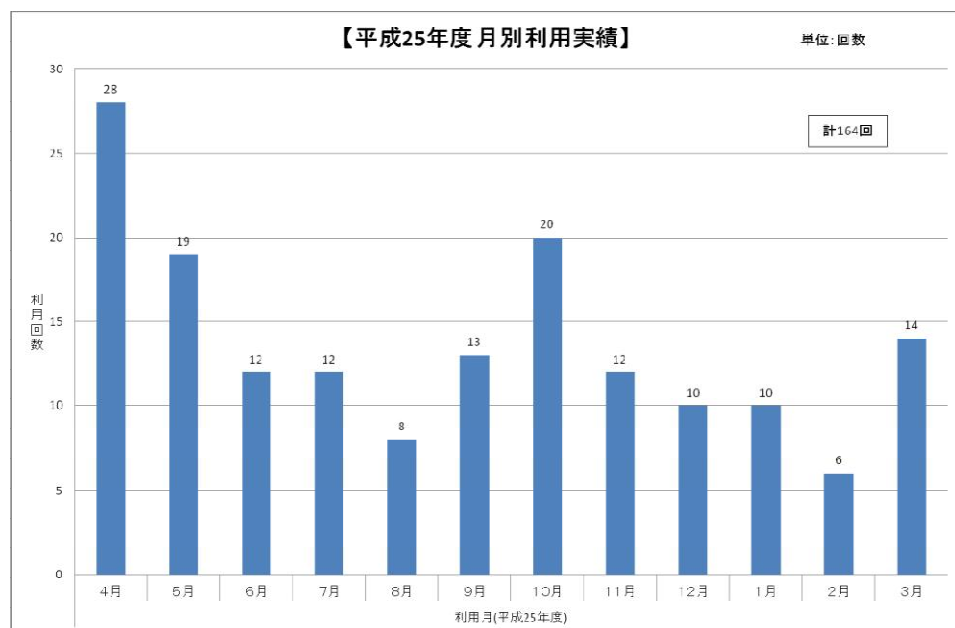
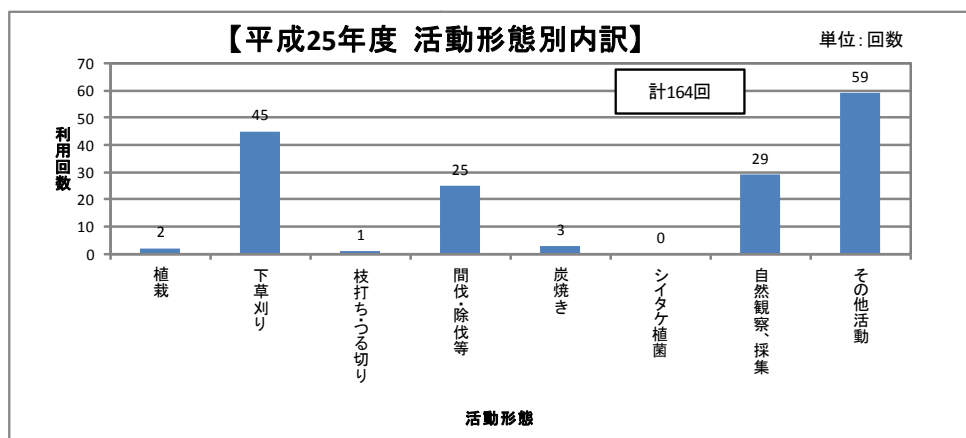
(7) 平成25年度教育の森の利用状況

(平成26年3月31日現在)

地域	利用回数			利用人数		
	学校の利用	その他の利用	計	学校の利用	その他の利用	計
千葉		52	52		722	722
(うち市原市)		40	40		481	481
東葛飾		31	31		446	446
印旛						
香取						
海匝	2	9	11	48	280	328
山武	2		2	23		23
長生		22	22		192	192
夷隅	6		6	325		325
安房						
君津	40		40	1372		1372
計	50	114	164	1768	1640	3408

注1) 学校の利用は主として授業時間での利用

注2) その他の利用とは注1) 以外の利用を指す



(8) 教育の森の認定数

(平成26年3月31日現在)

地域	年度別認定数									
	5~9	10	15	20	21	22	23	24	25	
千葉	計	13	13	12	11	11	11	10	11	3
	うち新規	13				1				
	うち再認定		4	3	3	2	2	1	1	3
(うち市原市)	計	5	5	4	3	3	3	2	3	0
	うち新規	5								
	うち再認定		1			1	1			
東葛飾	計	4	4	5	5	5	5	5	5	1
	うち新規	4		1						
	うち再認定		2	2	3	2			1	1
印旛	計	16	16	14	17	14	12	12	12	11
	うち新規	16								
	うち再認定		5	4	12					11
香取	計	13	13	13	10	6	6	6	5	4
	うち新規	13		1						
	うち再認定		4	6	4		1			4
海匝	計	9	9	10	5	2	2	2	1	0
	うち新規	9		1						
	うち再認定		3	3	1			1		
山武	計	14	14	15	16	14	15	14	14	3
	うち新規	14	1	1			1			
	うち再認定		4	5	5	4		3	1	3
長生	計	16	16	14	15	16	13	12	11	4
	うち新規	16			1					
	うち再認定		5	4	4	4		2		4
夷隅	計	8	7	7	4	3	2	2	2	0
	うち新規	8								
	うち再認定		1	1					2	
安房	計	15	15	14	10	10	10	8	7	3
	うち新規	15								
	うち再認定		5	4	3	3	1			3
君津	計	16	18	20	19	19	19	18	18	0
	うち新規	16	2	1						
	うち再認定		4	6	5	5	4	3	5	
計	計	124	125	124	112	100	95	89	86	29
	うち新規	124	3	5	1	1	1	0	0	0
	うち再認定	0	37	38	40	20	8	10	10	29

注) 再認定については、認定期間の終了日が属する年度の実績とする。

(9) 教育の森の利用実績の推移

地域	年度別利用回数									年度別利用人数								
	5~18	19	20	21	22	23	24	25	計	11~18	19	20	21	22	23	24	25	計
千葉	396	343	90	104	325	33	26	52	1,369	2,879	1,641	576	845	1,604	268	310	722	8,123
(うち市原市)	—	26	20	22	22	23	15	40	168	—	76	55	79	38	68	16	481	332
東葛飾	37	13	13	14	12	13	15	31	148	1,036	233	160	164	98	115	220	446	2,026
印旛	94	4	4	2	3	2	0	0	109	8,518	431	277	69	145	130	0	0	9,570
香取	26	7	7	3	3	0	0	0	46	643	330	252	99	101	0	0	0	1,425
海匝	23	3	6	10	12	14	11	11	90	306	170	192	338	411	228	435	328	2,080
山武	157	22	14	17	27	3	2	2	244	4,220	649	388	279	287	70	45	23	5,938
長生	92	18	26	33	28	8	19	22	246	3,081	562	540	385	365	458	402	192	5,793
夷隅	74	13	13	13	7	4	2	6	132	8,414	1,664	1,231	1,231	604	328	92	325	13,564
安房	60	6	7	7	2	2	0	0	84	985	41	56	51	19	6	0	0	1,158
君津	630	94	58	95	76	82	31	40	1,106	32,934	3,378	2,707	4,977	2,430	2,654	858	1,372	49,938
計	1,589	523	238	298	495	161	106	164	3,574	63,016	9,099	6,379	8,438	6,064	4,257	2,362	3,408	99,615

注) 平成10年以前の利用人数はデータがなく不明。